松戸 七福神めぐり

大黒天　ご真言　オン・マカキャラヤ・ソワカ

光明山 宝蔵院 大黒天

宝蔵院

当院は、松戸七福神がまつられる七か所のお寺のなかではもっとも南に位置し、そばには江戸川が流れ、川向うには葛飾金町、柴又、ちょっと足を延ばせば市川国府台となる「矢切の渡し」でも知られる上矢切にございます。

寺に残る古い石碑に、慶長十四年（一六〇九）と刻まれるものがあり、創立はそれ以前であると伝えられています。

ご本尊には、真言宗の中心のほとけさまである「大日如来」がまつられ、檀信徒や地元の方々から篤い信仰を受けております。境内には、七福神の「大黒天」のほかに、「子育て出世地蔵」「いぼとり地蔵」などがまつられています。

境内にありますお堂「矢切不動尊」では、大晦日深夜には厳かに「年越し護摩」を行い、二月三日の節分会には「祈願護摩」その後の「豆まき式」などで賑わっております。

交通は、松戸駅西口より〝矢切の渡し線〟のバスに乗り約十分、宝蔵院前で下車。お寺を囲む白い壁が目印です。

七福神信仰

七福神信仰の始まりは、仁王般若経という仏教のお経に説かれる「七難即滅、七福即生」の言葉に基づいて、室町時代に始まったといわれています。

七難とは、観音経や薬師経にも説かれていますが、

①火難、②水難、③風難、④悪霊難、⑤武器難、⑥投獄難、⑦強盗難

などの七つの災難のことです。

この「七難」を消滅すれば、「七福」が生ずるという訳です。実は、このお経の文句にあやかって、「禍転じて福と為す」の考えから七福神信仰が生まれたのです。

七福とは、

①寿命、②有福、③人望、④清廉、⑤愛敬、⑥威光、⑦大量（度量が広い大人物であること）のことです。

室町時代から変遷を経て、江戸時代の初めの頃には、現在に続く七福神の顔ぶれも定まり、七つの神様が、七福を一つずつ担当するようになりました。

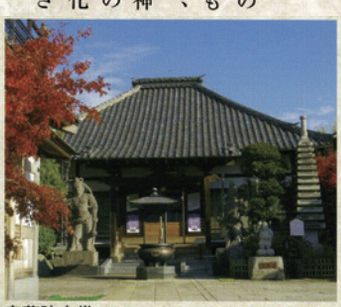
寿老人は寿命、大黒天は有福、福禄寿は人望、恵比寿様は清廉、弁財天は愛敬、毘沙門天は威光、布袋尊は大量を授ける神とされました。それは、人々が七福神にあやかって、さまざまな徳の備わった人間になりたいという思いからなのでしょう。そして、福の神を信仰するものは、七難を受けずに、七福を授けられると言われるようになっていったのです。

◇

七福神の神は、インドや中国の神様、仏様の化身、さまざまなものが、仏教を介して日本に入り、神仏習合の考えによって日本の神様とされたのです。あらゆるものを受け入れ、日本の伝統的な文化と融合していく日本人の懐の深さがよくわかります。

七福神と七福

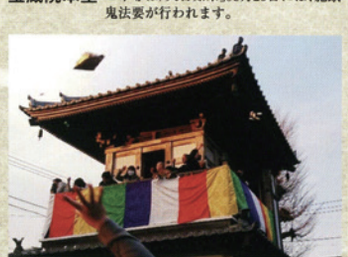
寿老人	大黒天	福禄寿	恵比寿様	弁財天	毘沙門天	布袋尊
寿命	有福	人望	清廉	愛敬	威光	大量



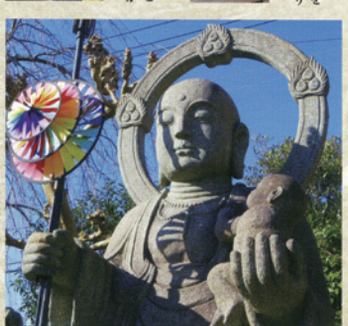
宝蔵院本堂 ご本尊は「大日如来」。8月20日には、施餓鬼法要が行われます。

いぼとり地蔵尊
江戸末期よりこの地を見守ってきた「いぼとり地蔵尊」。現在は、新たに再建されたものが祀られています。

大念珠
開運・招福・厄除けの大念珠。ゆっくりと綱を引くと珠が落ち不思議な澄んだ音が響き渡ります。



矢切不動尊
不動明王をお祀りする「矢切不動尊」。2月3日の節分には、豆まきのほか、お菓子をまいたり、投げ銭などでとても賑わいます。



子育て出世地蔵尊
安産、子育て、子供の成長をお祈りする「子育て出世地蔵尊」。

矢切の渡し×スカイツリー
土手沿いの道を南に向かえば、矢切の渡しに至ります。

一般社団法人 松戸市観光協会

大黒天
宝蔵院
松戸市上矢切1197
電話047-362-4917

バス情報　「松戸駅西口」京成バス（松31）～「宝蔵院」下車

そして、江戸時代後期の一八〇〇年代に入った頃には、今日のような形で七福神信仰が盛んになり、願いを気軽にかなえてくれる身近な神様として信仰され、日本人に愛されるようになっていきました。

◇

人びとが将来に不安を感じる時に、七福神信仰が盛んになるといわれています。日本の経済成長がかげりを見せた時に、金運を願う人びとのために、各地にいくつもの七福神巡りが作られているようです。

現在でも多くの人が、正月一日から七日までの間に七福神めぐりをされています。「今年こそ幸運を掴みたい」との思いで願いをかけるのでしょう。

かつて徳川家康は、仏事の相談役である天海僧正に勧められ、篤く七福神を信仰されたそうです。しかし、その教えは、神を祀ることで富を得るということではなく、家康自身が七福神を見習って身を慎めば七つの徳を得られるというものだったそうです。

私たちは「夢は自分の努力によって実現するものである」ということを肝に銘じて、徳川家康のように精進するための心の拠りどころとして七福神を信仰していきたいものです。

大黒天
（ご真言 オン・マカキャラヤ・ソワカ）

有福をあらわす大黒天は、もともとは武力の神でしたが、後にインドのお寺の台所に祀られ、毎日油で身体を拭われたため、真黒になったので大黒天と呼ばれました。わが国では大黒は大国に通じることから大国主命と同じ神とされ、更に物を司る大物主命とも同体だと考えられたため、有福をあらわす神とされたのです。